

# 広島東支部

## 広報 だより

広島県看護協会広島東支部会員数
保健師 40人(入会率20%)
助産師 20人(入会率47%)
看護師 1,353人(入会率51%)
准看護師 20人(入会率2%)
合 計 1,433人(入会率39%)

### 支部長挨拶

広島東支部の皆様にはますます健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より支部活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

支部長に就任してからおかげさまで2年目を迎えました。

6月より、池田理事をはじめとした新たな役員体制がスタートし、支部運営も新たな段階へと進んでおります。現在は、特に施設代表者の皆様の参加率向上を目指し、現場の声を直接伺えるような会議体の構築に取り組んでおり

ます。施設の規模を問わず、自由に意見を交わせる風通しのよい場づくりを目指してまいります。

昨年は、7月の参議院選挙、10月の総裁選と、女性総理誕生という歴史的な出来事が相次いだ一年でもありました。こうした社会の変化を受け、支部としても現場の声や課題をしっかりと受け止め、必要な場へ届けてまいります。

今後とも、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

広島東支部長 松田 早苗



### リフレッシュ研修

日時／令和7年4月19日(土)

場所／東区総合福祉センター

リフレッシュ研修を、令和7年4月19日（土）東区総合福祉センターにて総会後に開催いたしました。マツダ株式会社 マツダ病院 島本友理様に「人生をもっとカラフルに！～自分をよく知ってより良く楽しく生きる～」というテーマで研修いただきました。綺麗デザイン学をもとに、参加者個人のカラー診断をしていただき、自分を見つめ直すきっかけとなる内容でした。研修中は、参加者の笑顔も多く、互いに声かけ合う姿が多く見られ、リフレッシュの機会になったと思います。とても有意義な時間だったと多数の感想が寄せられ、学びの多い研修会となりました。

教育担当 仁熊 詩織



### + まちの保健室 +

5月・9月・11月・R8年1月は東区総合福祉センターで、6月・8月・10月は安芸区総合福祉センターで常設開催を行い、87名の方にご利用いただきました。R8年2月25日は、今年度最後の常設型開催の予定です。

また、11月にはフジグラン安芸にて、済生会フェアと合同でイベント開催を行い、20名の方にご参加いただきました。

セカンドオピニオンを考えている方や、日頃の生活習慣・体調管理について相談される方など、多くの方にご参加いただきました。

「この日を楽しみにしていました」「話を聞いてもらえて安心しました」といった声もあり、皆さまが熱心にご自身の健康と向き合う姿が印象的でした。

地域の皆さまの健康づくりの一助となっていました幸いです。

この取り組みは次年度も継続を予定しています。今後も多くの施設の皆さまのご協力をよろしくお願ひいたします。

教育担当 津田 美鈴



### 令和7年度 役員紹介

支 部 長	松田 早苗	社会福祉法人慈楽福祉会
副 支 部 長	木原 美佳	マツダ病院
副支部長(連盟担当)	園田さおり	県立二葉の里病院
幹事(総務)	金谷 由香	太田川病院
幹事(財務)	村田 織江	マツダ病院
幹事(社経)	上木 利江	県立二葉の里病院
幹事(教育)	仁熊 詩織	太田川病院
幹事(教育)	田中 正志	安芸市民病院
幹事(教育)	加納みち子	社会福祉法人慈楽福祉会
幹事(教育)	津田 美鈴	おかどりハビリ訪問看護ステーション
担当理事	池田ひろみ	済生会広島病院
事 務	河本あづみ	広島東支部事務所

# 地域で活躍する 特定行為看護師



## 在宅医療の現場で特定行為を根づかせるということ

訪問看護ステーション レジハビ 代表者 篠原 久恵

在宅の現場で特定行為を広めることは、想像以上に難しいと感じています。主治医に理解してもらうためには、まず面会のアポイントを取り、一つひとつ丁寧に説明することから始まります。「訪問看護de特定行為」のリーフレットをお渡しし、厚生労働省の手順書例集を参考に除外基準や判断基準をり合わせます。手順書は私たち看護側で作成し、医師に確認していただく形が多いです。

面談では、「脱水時は包括指示ではなく直接報告してほしい」「PICCではなく皮下輸液で対応を」「気切の管理は出血など致死的なトラブルに対応できるの?」といった不安の声が上がります。胃ろうチューブ交換に関しても「透視確認がなければ手技料が算定できない」といった制度面での壁があります。

それでも一例ずつ、対象者の主治医に説明を重ねることで、少しづつ理解の輪が広がっているように感じます。手技を忘れないよう、病院で実践の機会をいただきながら自己研鑽を積み重ねています。特定行為は手技の問題だけでなく、人と人との信頼づくりそのものです。地域の中で「安心して任せられる看護師」として認めてもらえるよう、これからも対話を重ねながら前へ進みたいと思っています。



## 特定行為研修の成果を院内で活かす取り組み

マツダ病院 看護師長 摂食嚥下障害看護特定認定看護師 松岡 聖剛

マツダ病院では2019年より認定看護師を中心に特定行為研修の受講を開始し、段階的に人材育成を進めてきました。現在までに6名が研修を修了し、15種類の特定行為を実施できる体制が整っています。特に「末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入」は、複数の診療科で導入が進み、年間約130例を実施し、患者さんの全身状態悪化の予防や治療の迅速化に大きく寄与しています。

また、薬剤投与に関する特定行為では、主治医への直接提案にとどまらず、多職種チームでの検討内容を踏まえた処方提案、副作用の出現時には中止提

案を行うなど、チーム医療の場面で、特定行為研修で得た知識を活かし、医療の質向上に寄与できるようになってきました。

今後、特定行為の活用をさらに促進するためには、看護師だけでなく多職種への理解促進と、運用体制の整備が不可欠です。現在、指導者講習会を修了した医師の協力を得て、全職種を対象とした周知方法や実施体制の構築について検討を進めています。



## 特養で生きる“その人らしさ”を支える看護

社会福祉法人慈楽福祉会 松田 禮子



私は昨年12月に急性期病院を退職し、現在は特別養護老人ホーム（特養）で勤務しています。皮膚・排泄ケア認定看護師および特定行為看護師としての経験を活かし、入居者の生活の質向上に努めています。

特養では、医師が常駐していない中で、看護師が入居者の健康管理や緊急対応、多職種との連携、看取りケアなど幅広い役割を担います。近年は医療的ケアニーズが高まり、看護師の判断力や特定行為の

活用が重要になっています。

私は皮膚・排泄ケア認定看護師として、皮膚トラブルの予防や早期発見、治癒促進に取り組み、処置をシンプルにすることで入居者の安楽と継続的なケアを重視しています。一方で、褥瘡から敗血症を発症した症例を経験し、包括的指示書があれば早期対応が可能だったと感じました。

特養は「終の棲家」であると同時に、地域共生社会の中で人生の最終段階を支える場です。入居者の意思を尊重し、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）や看取りケアを通して、その人らしい最期を支えられる看護を今後も実践していきたいと考えています。

**研修報告 救急蘇生研修会**

日時：令和7年8月30日(土)

受講生15名で、マツダ病院の住居晃太朗先生を講師に迎え開催しました。

研修では、心肺蘇生の基礎や、看護師の役割について、講義がありました。

その後、講師とインストラクターの指導の下、成人一人法・二人法CPR、AEDを用いたCPR等の演習を、院内・屋外の場面を想定して行いました。参加者の経験年数は幅広く、初心に戻り学ぶことができたとの回答もあり、知識・技術ともに満足のいく研修となりました。

教育担当 加納 みち子

**研修報告 社会経済福祉研修**

日時：令和7年9月13日(土)

令和7年9月13日「コミュニケーションの取りづらさ～認知・発達特性から考える～」をテーマに研修会が開催されました。広島県発達障害支援センター 吉元一峰先生を講師に迎え、発達特性の基本を事例を交えながら分かりやすく講演していただきました。特性に応じた業務の工夫や、環境調整、声のかけ方など実践的な支援方法を学ぶことが出来ました。多様化する現代社会において、医療従事者も発達特性を知り、相手を理解する事の重要性を感じた研修でした。皆さんの部署で今後の指導に繋がることを願っています。



社会経済福祉担当 上木 利江

**研修報告 組織強化研修会**

日時：令和7年12月6日(土)

組織強化研修会を、令和7年12月6日(土) 県立二葉の里病院にて開催いたしました。看護協会について池田ひろみ様、看護連盟について園田さおり様に説明いただき、株式会社ゆず看多機みそのっこ 看護統括リーダー 作田路帆様に「看多機の中の暮らし」というテーマでご講演いただきました。患者様・利用者様がその人らしく暮らしていくよう、多職種で連携していくことの重要性、講師の先生の情熱を感じることができ、とても有意義な講習会だったと多数の感想が寄せられ、学びの多い研修会となりました。

教育担当 仁熊 詩織

**▶看護研究サポート**

看護協会の支部活動で広島県内の看護系大学との連携により看護研究の指導・助言を受け、看護研究のレベルアップを図っています。広島東支部では広島国際大学と連携を図り、今年度は百田由希子先生に指導していただき、各施設が看護

研究の活動を行いました。今年度は4演題の研究をサポートし、各施設とも助言を受けながら方向性を明確にでき、研究発表会へと繋げていきました。業務と並行しながら多忙な中での取り組みですが、日頃の疑問や気になることについて研究サポートを通して考えていくことは充実した時間に繋がっていました。

教育担当 田中 正志

**編集後記**

支部だよりの発行にあたり、ご協力いただきました講師の皆様、研修にご参加くださった皆様、そして東支部役員の皆様に心より感謝いたします。多くの方々との出会いにも、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。医療・看護を取り巻く環境は日々変化しており、専門性の向上や地域とのつながりがこれまで以上に大切になってきています。これからも支部活動が、出会いを大切にし、人と人がつながり、共に学びを深めていける場となるよう取り組んでいきたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。／津田

[発行日] 2026年2月発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島東支部  
〒732-0052 広島市東区光町1丁目6-8 第二吉岡ビル 603号室  
TEL/FAX:082-262-3524  
E-mail: s-higashi@nurse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 松田 早苗